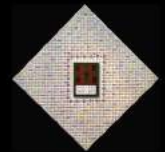


## YASUO ARAKAKI

新垣安雄 1942年沖縄県南風原町生まれ。琉球大学美術工芸科卒業後、高校教師として後進の指導にあたり、美術作品を制作する。60年代は最初期の教員に赴任先が読谷高校であり、毎日の通勤途中に米軍基地を見て沖縄の矛盾を感じ、美術で現実を表現する事を思い至る。当初から反基地、反米軍の立場からの表現は一貫して変わらない。1972年琉球政府前広場、1975年海洋博覧会への反発としての与儀公園での野外展など、モダニズムと社会的現実へのメッセージが結びついている。



## SHIRO KADEKARU

嘉手苺志朗 1985年沖縄県豊見城市生まれ。沖縄県立芸術大学大学院環境造形専攻修了。ミュンヘン芸術院に交換留学生として1年間在籍。主な展覧会、「沖縄アートフェスティバル」(浦添市美術館)、コマンドN企画巡回型アーティストインレジデンス成果発表展(1984年、東京)、「ユッカスヒート展」(那覇市立斎庭植物博物館)、「ここで、何かを、どうにかする。ために」(沖縄県立芸術大学蔵キヤンパス)、「反戦」展(SNOW Contemporary)、「うるさい」(高円寺pokeit)、「群馬青年ビエンナーレ 2014」(群馬県立近代美術館)。

## KEIZO KAWAHIRA

川平恵造 1949年沖縄県那覇市生まれ。元沖縄県美術家連盟会長。琉球大学美術工芸科卒業後、高校教師として後進の指導にあたり、絵画を制作、個展を続ける。1984年の第2回個展は、復帰以後いつのまにか沖縄が変わって行く風景が、いつの間にか自明なものとして存在することに意識を向けさせることで評価される。その後、夏・夏シリーズなど沖縄の夏の感情を絵画に持ち込む。沖縄タイムス芸術賞大賞受賞。沖縄県芸術文化祭審査員・無鑑査。

## TORU KINJO

金城 徹 1979年沖縄県那覇市生まれ。沖縄県立芸術大学大学院造形芸術研究科環境造形専攻絵画専攻修了。学生時代は鉄板を使った、ダイナミックな平面を制作していたが、その後日常の中のかすかな事象に焦点をあてるような立体・半立体的な作品を制作し続ける。物事の二義的な面に注目し、複数方向から見えるオブジェを制作する。県内外での展覧多数。沖縄県立芸術大学非常勤講師。主な展覧会に「1から生まれる10」(GAR B DOMINGO)「ここからみえるもの」(画廊沖城)、「YAKENA1129 Exhibition」(県民ギャラリー)。

## MITSURU KINJO

金城 満 1959年沖縄県那覇市生まれ。琉球大学大学院修了。1987年沖縄展賞、1988年県展で県知事賞など数々の賞を受賞。1996年佐喜真美術館にて沖縄戦犠牲者数23万余人の石に番号を振るアートプロジェクト「石の声」が全国的に話題になる。その後「鉄の記憶」等沖縄戦シリーズが続く。沖縄で現代社会のシステムや矛盾に焦点をあてた作品を制作し続ける。2014年光州ビエンナーレに招待作家として韓国光州市で展示。個展多数。現在浦添工業高等学校教諭。

## KENGI TAKARA

高良憲義 1939年サイパン生まれ。父親と子供で戦後帰郷。琉球大学卒業後、中学教師のかたわら前衛活動を60年代後半から復帰直後まで続ける。永山信春、新垣晋紀、金城暁秀とグループを結成し、68年「現代美術研究会」として那覇市与儀公園で、69年には那覇市国場川にて大規模な野外展を開催。その後東洋思想の研究に没頭する。1993年から社会問題に焦点を当てた個展を定期的に開始する。主な展覧会に個展2012年「ぼくは戦争難民」(画廊沖城)等がある。

## YUKEN TERUYA

照屋勇児 1973年沖縄県南風原町生まれ。多摩美術大学絵画科卒業後、メリランド大学、スクールオブビジュアルアーツ大学院を修了。ニューヨーク在住。初期の頃より、沖縄の社会的問題や環境問題に関心を寄せ、美術表現に取り入れる。基地の重圧に苦しむ側面と、一方で北部の山の乱開発や基地内の自然が保たれている皮肉、それを取り込んだ紅型作品「結い、You.」を制作。元の樹木の生命を紙袋の中で蘇らせる「告知一森」などで世界の注目を集める。国内外で活躍する。

## HISANAO AGUNI

粟国久直 1965年沖縄県宮古島市生まれ。大阪芸術大学美術学科絵画専攻卒業。同年代は中原浩大など関西ニューウェーブの吹き荒れる頃であったが、粟国は本質的な問題に意識して行く。それが、川崎市における「Lotus」という原始的な作品に繋がって行く。作品制作の前に言葉立ち上げ、それによって喚起される図像 - Diagramを描くことと、DNAをモチーフとした始原的な追求、そしてこの数年は、沖縄における戦争から展開し、人類の争いの本質をテーマとした作品を制作している。



© +Y Gallery

## KENJI OYAMA

大山健治 1971年沖縄県那覇市生まれ。東京芸術大学美術研究科絵画専攻修士課程修了。大学院修了後、映像の世界に入り数多くの映像プロジェクトに関わる。美術と映像の世界において県内外で活躍中。モダニズムを踏襲しつつ現実を迫る映像を制作。最近の展覧会、2012年「沖縄美術 in NY」(日本クラブギャラリー、ニューヨーク)。2014年「写真集をめぐる一つの提案」展(沖縄県立芸術大学附属図書館・芸術資料館)、大阪 +Y ギャラリーにてアサギマダラをテーマにした映像作品を展示。



© +Y Gallery

## NORIO KIKUMURA

喜久村徳男 1937年旧台湾省生まれ。琉球大学美術工芸科卒。教職歴中学校、沖縄工業高校デザイン科、沖縄県立芸術大学非常勤講師。人間の統御できない身体性に関心を寄せ、一貫して人間の身体を追求してきた。2001年のツインタワービル崩壊以後、「耐えがたき風景」などを制作。社会的な現実を取り入れはじめ、最近では「赤い地平線」をテーマに危機的予感への問いを模索。沖縄タイムス芸術賞大賞受賞。芸術委員会(審査員)。一般社団法人沖縄県美術家連盟副会長、沖縄県芸術文化祭審査員・無鑑査。



## KIYOKO SAKATA

阪田清子 1972年新潟県上越市生まれ。沖縄県立芸術大学大学院を修了後も、拠点を沖縄におく。作品は記憶、人の気配を感じさせるものを主題とする。近年は自分自身の沖縄での滞在を通して考え、感じて生まれた「止まったカーテン」などを制作している。2008年「沖縄美術 in NY」東京国立近代美術館。2012年「沖縄美術 in NY」(日本クラブギャラリー、ニューヨーク)。「アジアをつなぐ - 境界を生きる女たち 1984-2012」(沖縄県立博物館・美術館)、2014年「ニガタ・クリエーション展」(新潟市美術館)。



## HITOSHI CHIBANA

知花 均 1961年沖縄県読谷村生まれ。愛知県立芸術大学大学院修了。愛知県立芸術大学大学院修了。「水水平線考」、「水の境界」、「フレンジーション - マップ」など、一貫して事象の境界に関心を注ぎ、人間心理の境界性に主題を求めている。版による思考(版に対する方法)を見出し、日常の視点的な状況に作品の文脈を求め今日に至る。近年、那覇読谷の地との対話から、地上戦の軍事地図と地に生長する植物の影に反る版画を制作。2014年9月、韓国「投影」(ギャラリーアス)で、沖縄の今に寄り添い、美術家として連帯を求め個展を開催した。現在、沖縄県立芸術大学准教授。



## CHIKAKO YAMASHIRO

山城佳佳子 1976年沖縄県那覇市生まれ。沖縄県立芸術大学時代、イギリス留学中に訪ねたアイルランドで沖縄と出会う。同時に概念的なパフォーマンスにも出会い、現在までその影響は続いている。2012年「川内屋の女」MAMプロジェクト個展(森美術館、東京)。「アジアをつなぐ - 境界を生きる女たち 1984-2012」(沖縄県立博物館・美術館)ほか国内外の現代美術展に出品多数。近年では琉球古典・沖縄大衆芸能、レジーナ・カピロ、川口隆夫など、コンテンポラリーダンスと組んで映像を手がけるなど幅広く活動している。



Courtesy of the artist / Yumiko Chiba Associates

## ASAHIKO YARA

屋良朝彦 1963年沖縄県那覇市生まれ。琉球大学美術工芸科卒業後、高校の美術教師として後進を育てるかわから、絵画の制作を続け、個展を重ねる。80年代からMySpaceシリーズとして、沖縄の風景の一部をきり出したモチーフを展開していたが、抽象に変化する。様々なモチーフ(布、沖縄の紙銭や線香など)と平面から、最近作は培られた空気を膨らまして絵画として再生させる仕事をしている。2013年読谷村立美術館にて回顧展。沖縄タイムス芸術賞大賞受賞。一般社団法人沖縄県美術家連盟理事長、沖縄県芸術文化祭審査員・無鑑査。



「社会と芸術 - 戦後沖縄社会と美術」展 会場：浦添市美術館 前期：2015年6月3日(水) - 7日(日) 後期：2015年6月24日(水) - 28日(日)

主催：戦後70年沖縄美術プロジェクトする実行委員会 | 浦添プロジェクト 共催：浦添市教育委員会、読谷村立美術館、佐喜真美術館

協賛：オリオンビール株式会社

後援：沖縄県美術家連盟、沖縄県文化協会、(株)沖縄タイムス、琉球新聞(株)、NHK沖縄放送局、沖縄テレビ放送(株)、琉球放送(株)、琉球朝日放送(株)、(株)ラジオ沖縄、(株)エフエム沖縄

協力：+Y Gallery, Courtesy of the artist / Yumiko Chiba Associates

オリオンビール